

令和元度 大阪府立羽曳野支援学校 第1回 学校運営協議会 概要

日 時 令和元年7月12日（金）15：00～16：30

場 所 大阪府立羽曳野支援学校 校長室

参加者 亀田委員 平賀委員 井上委員 平井委員

木村校長 福積教頭 名手教頭 秋山主査 浅田首席 上間首席 川崎教諭

1 校長挨拶

・G20 のための休講等についてご理解いただきたい。本年度もよろしく願いするとともに、お気づきの点やご意見をいただきたい。

2 職員紹介

3 会長選出 亀田委員

4 平成31年度（令和元年）学校経営計画について

（木村校長）

（1）平成30年度をふまえて学校教育計画の取組自己評価について変更をした。

①重点目標に自立活動を復活した。

②教育支援計画・指導計画について（検査について）

③手引書について

④児童・生徒へのアプローチについて

⑤主体的な取り組み

ア ICTの直接的な取り組み

「魔法のプロジェクト」TV会議について

分教室、同士、本校、訪問等とつなぎ連携する。

⑥読書関係の充実 バーコードで書籍を管理する。

⑦道徳教育の充実

5 質疑応答（●は協議会委員 ○は事務局）

（●）取り組みについての質問

・病弱教育の地域の学校・地域との連携が盛り込まれている。

・道徳教育は、いじめ、命の軽視から導入されたのではないか？

内容は命を扱ったものが多く、病気の生徒については配慮およびチェックが必要ではないか？

・普段私は小児がんに携わっているが、児童は私たちよりよくわかっているのか、教育はどのように伝えていくのか？

（校長）回答

・研修等で能力をつけ配慮している。

(○)

- ・自分の命を守るために、カードゲームの方法等について、丁寧に扱うことによって人→自分とのつながり。授業教科書については内容を確認し、命の大切さを→自分を大切に→他人を大切に→命を大切にすることを教えている。

(●)

- ・道徳を柔軟に変化して、自分の置かれている立場を考えて、今の子供の立場を考えて指導していくのがポイントではないか
- ・また自分たちが特別ではないと思ってきている。(LGBT等の広い範囲で)

(●)

- ・学力向上→個別支援→児童生徒への技量について
「魔法のプロジェクト」がおもしろい、どういう確率で本校が選ばれたのか？

(校長)

- ・京都の支援学校が先行していて、本校も手をあげて選んでいただいた。

(●)

- ・「魔法のプロジェクト」についてはとても興味があります。
- ・読書活動については、どんな取り組みですか？

(校長)

- ・バーコードで書籍を管理して、子供たちも読書にかかわれるよう、本校から徐々に広げてゆきたい。

(●)

- ・本の数はどのように増やすのですか？
- (校長)
- ・図書委委員が中心となって増やしていきます。

6 連絡報告について

(1) 教科用図書について 小・中学部図書

羽曳野市・堺市で採択の教科書を本校で採択する。

(2) PTA 活動について

PTA 活動は別紙のとおりである。本校と分校の一部で行っている。

(3) 中学部修学旅行について

(○)

- ・母子分教室の修学旅行について説明

(4) 「魔法のプロジェクト」については説明

(○)

- ・東京大学先端技術センターとソフトバンク株式会社との共催である。
孤立感のある生徒を支援するため、遠隔教育の実施、ネットを通じた合同授業・式典・

始業式等の実施

(●)

- ・ソフトバンク等にどのような報告をするのか？

(●)

- ・「魔法のプロジェクト」で顔の見える交流ができたのではないかと
阪南分教室の演奏会を見ての感想です。

(●)

- ・感想ですが、日常生活が別で QOL を高める、羽曳野支援は複数の教室から、ひとつの共通感を持ちやすくなるのではないかと。これからはもっと重宝されるのではないかと。

(●)

- ・個人的なアプローチはどのようにされるのか

(校長)

- ・2月に報告させていただく

7 閉会挨拶（校長）